

平成 28 年度 事業計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホーム

【総合的な目標】

第一に施設利用者及び家族が安心して過ごせるようなケアを提供する。

出会いから最期を迎えるその時まで、利用者が笑顔で満足してもらえるように家族や地域を巻き込みながら一緒に利用者の生活を支えるように努力する。

第二に地域貢献活動を活発に行い、社会のために奉仕する。

社会福祉法人として、地域住民の福祉を念頭に環境美化や高齢者介護についての知識や技術、健康増進の活動を出来る範囲で支える。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

利用者のこれまでの暮らしぶりを最大限考慮しながら、起床時間や食事時間など個別に対応できるようスタッフの配置や勤務シフトなどを工夫していく。また、日頃の介護が満足いくものだけでなく、自宅や馴染みの場所、墓参りへのお出かけを家族と協力しながら行い、利用者、家族の喜び、笑顔に結びつくような援助をする。定期的なカンファレンスを通じて、スタッフは客観的視点・主観的視点から思考、発言することでそれぞれの専門性を高め合い、多職種協働により質の高い支援を目指す。

職員教育としては、職員研修会やケアサービス会議、日常のカンファレンスにおいて看取り介護についてや感染症、介護事故予防、人権擁護について勉強の機会を確保していく。中途採用者については介護職員初任者研修や介護職員実務者研修の受講費補助の検討をする。

【収益的活動】

安定的な事業活動を継続するために、多くの加算を算定することとベッド稼働率の向上をする。加算算定としては、体制加算として必要な人員を確保し欠員による減算等がないようにする。個別算定の加算としては、適切で質の高いケアを提供することと提供したケアをきちんと記録に残すことで介護報酬の返戻がないようにする。ベッド稼働率の向上としては、特養の年間ベッド稼働率を 99.5%確保、ショートステイの年間ベッド稼働率を 84%確保する。そのため、特養は待機者の確保や申込み後のフォローをしっかりと管理する。ショートステイは居宅介護支援事業所との連携や営業活動を行っていく。

【支出的活動】

職員の定期昇給を維持できるように、事業費・事務費の削減（仕入商品単価見直→経費見直の実施）を目指すと同時に、適正人員を検討し人件費の適正化を図り、各事業所における必要人員の周知を図る。その上で、利用者へのケアを提供する上で必要な備品や改修について予算の範囲内で支出する。

【地域貢献活動】

地域貢献活動として、毎月 1 回施設周辺で清掃活動を行う。また、介護事業所として地域住民に介護方法の教室や認知症について理解してもらうための活動、介護予防に必要なことなどを事業所や各公民館において実施する。地域の高齢者のための墓参り支援活動を形にするための検討をする。

平成 28 年度 研修計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホーム

	研修項目	研修内容
4 月	介護記録について	記録の重要性や必要性を理解し、どのように記録を書けばいいのかを学ぶ
5 月	利用者の楽しみの支援について	レクリエーションや楽しみながら行える機能訓練等を学び、利用者の QOL 向上につなげる
6 月	ノーリフト・持ち上げない介護方法について	職員の腰痛予防の観点から、職員・利用者双方に優しい介護技術を学ぶ
7 月	職員の気持ちのコントロール、ストレスマネジメントについて	職員の仕事上のストレスについて考え、自分の気持ちとの向き合い方について学ぶ
8 月	事例検討会	日頃の自分たちの介護について発表し、振り返り考え、話し合う
9 月	看取りの介護について	看取り介護の意義やエンゼルケア、人の死について学ぶ
10 月	感染症及び食中毒予防について	感染症及び食中毒の予防について学び、事業所内の感染、まん延を防ぐ
11 月	倫理、高齢者虐待、人権擁護、身体拘束廃止について	専門職としての倫理や高齢者虐待、人権擁護、身体拘束の定義等について学ぶ
12 月	事故発生時の対応について	事故発生時の対応や連絡方法、その後の対応及び事故を未然に防ぐには等のリスクマネジメントについて学ぶ
1 月	非常災害時の対応について	火災通報装置の取扱い、非常時の連絡方法や災害時の事業所の役割等について学ぶ
2 月	事例検討会	日頃の自分たちの介護について発表し、振り返り考え、話し合う
3 月	認知症ケアについて	認知症の症状や対応について学び、自分たちの関わり方について振り返る

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホーム

4 月	上旬	開園記念日・お花見
	中旬	火災想定総合避難訓練・高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会 *法要法話（照明寺 藤谷先生）
5 月	上旬	端午の節句
	中旬	
	下旬	*法要法話（高陵寺 加来先生）
6 月	上旬	
	中旬	
	下旬	家族交流会 *法要法話（照明寺 藤谷先生）
7 月	上旬	七夕・竹子みどりの少年団交流
	中旬	高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会 *法要法話（高陵寺 加来先生）
8 月	上旬	
	中旬	お盆法要・山陵会夏祭り
	下旬	火災想定夜間集合訓練 *法要法話（照明寺 藤谷先生）
9 月	上旬	
	中旬	敬老祝賀会
	下旬	彼岸法要・十五夜 *法要法話（高陵寺 加来先生）
10 月	上旬	
	中旬	高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会 *法要法話（照明寺 藤谷先生）
11 月	上旬	ほぜ祭り
	中旬	七五三・家族介護週間
	下旬	*法要法話（高陵寺 加来先生）
12 月	上旬	
	中旬	
	下旬	クリスマス会・忘年会・餅つき *法要法話（照明寺 藤谷先生）
1 月	上旬	初詣・七草
	中旬	鏡開き・高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会 *法要法話（高陵寺 加来先生）
2 月	上旬	節分の豆まき
	中旬	
	下旬	*法要法話（照明寺 藤谷先生）
3 月	上旬	桃の節句（ひなまつり）
	中旬	彼岸法要
	下旬	*法要法話（高陵寺 加来先生）

平成 28 年度 事業計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

【総合的な目標】

第一に施設利用者及び家族が安心して過ごせるようなケアを提供する。

これまでの暮らしぶりを大切にし、利用者と家族、利用者と地域がつながりを持って、自分らしい暮らしができるように支援する。

第二に地域貢献活動を活発に行い、社会のために奉仕する。

地域の行事に関する情報を収集し、積極的に関わらせてもらう中で、地域の困りごとや介護の困りごとを把握できるようにする。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

利用者、家族、職員のより密な三角関係を構築し、よりよい利用者の暮らしを支援していく。そのために家族交流会を開催し、顔を合わせ話をする機会を作ったり、現在行っているユニットカフェにも家族に入ってもらい季節の催しなど一緒に行えるような取り組みを行う。また、月1回の「作りもんそ会」と題した、料理やお菓子作りの機会をもうけ一緒に作り、話をし、楽しみの場を作り、作った料理やお菓子は、当日の献立に取り入れ、ユニット利用者全員に試食してもらう。

職員教育としては、職員研修会やケアサービス会議、日常のカンファレンスにおいて看取り介護についてや感染症、介護事故予防、人権擁護について勉強の機会を確保していく。中途採用者については介護職員初任者研修や介護職員実務者研修の受講費補助の検討をする。

【収益的活動】

安定的な事業活動を継続するために、多くの加算を算定することとベッド稼働率の向上をする。加算算定としては、体制加算として必要な人員を確保し欠員による減算等がないようにする。個別算定の加算としては、適切で質の高いケアを提供することと提供したケアをきちんと記録に残すことで介護報酬の返戻がないようにする。ベッド稼働率の向上としては、ユニットの年間ベッド稼働率を 99.0%確保する。ユニットについては、多床室に比べ待機者が少ない現状があるので、管内の医療機関や老健、居宅介護支援事業所を定期的に訪問、毎月実施しているユニットカフェの取り組みを通して入居申込者の確保を行う。

【支出的活動】

職員の定期昇給を維持できるように、事業費・事務費の削減（仕入商品単価見直→経費見直の実施）を目指すと同時に、適正人員を検討し人件費の適正化を図り、各事業所における必要人員の周知を図る。また、電気（空調管理や電気など無駄をなくす）、水道（お風呂をためる際は時間管理を行い必要分で活用）、オムツ等（利用者を一番に考え、より合った物、状態を試行錯誤）少しでもコスト削減につなげる。ユニットでは完全調理を行っているため、毎月食材料・

在庫の状況を把握し、予算対実績の確認を行っていく。予算に対し食材費がオーバーした際は、原因を追究し改善していく。

【地域貢献活動】

町内会でのゲートボール等へこちらから出向き地域住民との関わりを持つことで高齢者介護について広報する機会を持つ。その上で、介護事業所として地域住民に介護方法の教室や認知症について理解してもらうための活動、介護予防に必要なことなどを事業所や各公民館において実施する。地域の高齢者のための墓参り支援活動を形にするための検討をする。

平成 28 年度 研修計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

	研修項目	研修内容
4 月	介護記録について	記録の重要性や必要性を理解し、どのように記録を書けばいいのかを学ぶ
5 月	利用者の楽しみの支援について	レクリエーションや楽しみながら行える機能訓練等を学び、利用者の QOL 向上につなげる
6 月	ノーリフト・持ち上げない介護方法について	職員の腰痛予防の観点から、職員・利用者双方に優しい介護技術を学ぶ
7 月	職員の気持ちのコントロール、ストレスマネジメントについて	職員の仕事上のストレスについて考え、自分の気持ちとの向き合い方について学ぶ
8 月	事例検討会	日頃の自分たちの介護について発表し、振り返り考え、話し合う
9 月	看取りの介護について	看取り介護の意義やエンゼルケア、人の死について学ぶ
10 月	感染症及び食中毒予防について	感染症及び食中毒の予防について学び、事業所内の感染、まん延を防ぐ
11 月	倫理、高齢者虐待、人権擁護、身体拘束廃止について	専門職としての倫理や高齢者虐待、人権擁護、身体拘束の定義等について学ぶ
12 月	事故発生時の対応について	事故発生時の対応や連絡方法、その後の対応及び事故を未然に防ぐには等のリスクマネジメントについて学ぶ
1 月	非常災害時の対応について	火災通報装置の取扱い、非常時の連絡方法や災害時の事業所の役割等について学ぶ
2 月	事例検討会	日頃の自分たちの介護について発表し、振り返り考え、話し合う
3 月	認知症ケアについて	認知症の症状や対応について学び、自分たちの関わり方について振り返る

*外部研修については、必要性を検討し参加する。

*外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画（案）

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

4 月	上旬	開園記念日・お花見
	中旬	火災想定総合避難訓練・高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会・ユニットカフェ ＊法要法話（照明寺 藤谷先生）
5 月	上旬	端午の節句
	中旬	
	下旬	ユニットカフェ ＊法要法話（高陵寺 加来先生）
6 月	上旬	
	中旬	
	下旬	家族交流会・ユニットカフェ ＊法要法話（照明寺 藤谷先生）
7 月	上旬	七夕・竹子みどりの少年団交流
	中旬	高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会・ユニットカフェ ＊法要法話（高陵寺 加来先生）
8 月	上旬	
	中旬	お盆法要・山陵会夏祭り・ユニットカフェ
	下旬	火災想定夜間集合訓練 ＊法要法話（照明寺 藤谷先生）
9 月	上旬	
	中旬	敬老祝賀会
	下旬	彼岸法要・十五夜・ユニットカフェ ＊法要法話（高陵寺 加来先生）
10 月	上旬	
	中旬	高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会・ユニットカフェ ＊法要法話（照明寺 藤谷先生）
11 月	上旬	ほぜ祭り
	中旬	七五三・家族介護週間
	下旬	＊法要法話（高陵寺 加来先生）
12 月	上旬	
	中旬	ユニットカフェ
	下旬	クリスマス会・忘年会・餅つき ＊法要法話（照明寺 藤谷先生）
1 月	上旬	初詣・七草
	中旬	鏡開き・高齢者福祉研究会
	下旬	入所検討委員会・ユニットカフェ ＊法要法話（高陵寺 加来先生）
2 月	上旬	節分の豆まき
	中旬	
	下旬	ユニットカフェ ＊法要法話（照明寺 藤谷先生）
3 月	上旬	桃の節句（ひなまつり）
	中旬	彼岸法要
	下旬	ユニットカフェ ＊法要法話（高陵寺 加来先生）

平成 28 年度 事業計画（案）

フラワーホームデイサービスセンター

【総合的な目標】

1. 「地域」に出ていき、関わりをもつ

①地域の自治会を把握する。②自治会の行事を把握する。③どの利用者がどの自治会に加入しているか、また、知り合いがいるかを調べる。④外出行事として地域の行事に参加をする。

※現在でも地域の行事に参加を行っているが、利用者が住んでいる地区を意識して参加することでより喜び楽しみ懐かしむ事を期待する。

2. 「家族」に対しても積極的に関わりをもつ

①定期的な家族会の開催を行う。5月、11月と年2回行う。②デイサービス見学週間を設ける

※家族の悩みを聞ける絶好の機会ととらえ、利用者・家族が「今」悩んでいることを把握し、通所介護計画や機能訓練計画に反映する。また、利用者家族同士で交流を図る場を提供し、悩みの共有や理解を図る。

3. デイサービス便りを発行していく

①「地域」や「家族」のため、デイサービスの役割を広く知ってもらう。②四カ月に一回発行する。※現在書式を作成中

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

①多様な研修計画を立て、委員会等も構成（既存に参加）していく

今年度、第三者評価を受け、自己評価や他者評価の結果から、何が今のデイサービスに足りないのかを学ぶことができた。そこで多様な研修計画を立て、各種委員会等も構成することで、サービスの質の向上や職員のモチベーションの向上を目指す。そして主なサービス内容である、入浴、食事、排泄、移動のケアマニュアルの見直しを行い、ケアの質の向上を図る。

②体制をしっかりと作っていく

利用者・家族の事をしっかりとアセスメントし、知識としてある事を記録に残すことで、計画やケアに反映し、利用者の満足感が職員の満足感になることで、仕事に対するやりがいを向上させる。

③65歳以上の方の雇用について

現在、生活相談員、看護師、介護福祉士、機能訓練指導員で、①通所介護計画作成や評価、②運動機能計画作成・評価、③通所介護予防事業計画作成・評価、④個別機能訓練計画作成・評価について、各職種が担当制で日常業務の合間で行っているが、①～③を担当している看護師においては、利用者の重度化により日常業務が多忙となり、期日を過ぎてしまうことが課題としてある。そのため、朝夕の送迎業務、午前中のお茶出し、片付け、送迎後の掃除をする職員を募集する。

【収益的活動】

①「中重度ケア体制加算」

当年度 12 月までの収支報告にて、昨年よりは収益の向上が見込めており、要因として、要介護 3 以上の利用者の増加がある。今後さらに中重度の利用者が増えると予想しており、次年度は「中・重度ケア体制加算」を算定するための体制を作る。

②「認知症加算」

現在、認知症自立度Ⅲa 以上の利用者も増加している。「認知症加算」を算定には、認知症実践者研修等を修了した職員の配置が必須であり、27 年度は 1 名修了した。次年度から算定開始に向け、利用者、家族やケアマネジャーと連携をとり、担当者会議等を終えた利用者から順次、加算を算定していく。また、来年度中にもう一名実践者研修を修了し、年間で約 90 万円、全体収益の 1.5% の向上を図る。

③「個別機能訓練加算Ⅱ」

平成 26 年 9 月から個別機能訓練加算Ⅰの算定を開始しており、現サービス内容でも加算Ⅱを算定できる利用者もいるため、全利用者（要介護の方）の 10% 程度の方から加算算定を検討。加算を算定することで、一月あたり約 3 万円の収益向上を図り、年間で 36 万円、全体収益の 0.6% の向上を図る。

※職員の配置数が重要課題であり、最低限、現状態の職員数の維持を図り、利用者数が今後増えていく事で職員数の増員も必要である。

【支出的活動】

中重度者の増加のため、身障トイレを 2 つに増築予定。また、合わせて個浴や個室の必要性を検討する。

【地域貢献活動】

「朝の清掃活動」を行う。

デイサービス周囲の清掃活動を行う。

偶数月の第一月曜日に、職員で道路・歩道の掃除・ごみ拾いを行う。

平成 28 年度 年間研修計画（案）

フラワーホームデイサービスセンター

	研修項目	研修内容
4 月	法人の倫理、理念について	法人の倫理、理念について学ぶ
5 月	認知症の理解と対応	事例検討・よりよいケアを行うために
6 月	リスクマネジメントについて	去年度のインシデント・アクシデントの反省、事故予防について
7 月	苦情・相談について	苦情・相談のマニュアルの確認 事例検討等
8 月	個人情報の保護とコンプライアンス	個人情報の取り扱い、利用方法・他事業所との連携について
9 月	職員のメンタルヘルスについて	外部講師依頼検討
10 月	相談援助技術について	直接援助技術や間接援助技術などについて学ぶ
11 月	感染症予防	感染症の種類と予防方法
12 月	虐待防止等の権利擁護	利用者のプライバシー保護と虐待防止に関する知識、身体拘束等について
1 月	褥瘡予防	褥瘡の知識や予防方法、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等について
2 月	救急救命 AED の使い方	AED の使い方、心肺蘇生法など緊急時に対応できるように学ぶ
3 月	フォーマル・インフォーマルサービスについて（総合事業も含む）	地域の中のボランティア活動などの社会資源について学ぶ

* 外部研修については、必要性を検討し参加する。

* 外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画（案）

フラワーホームデイサービスセンター

4 月	上旬	さくら見物（花見弁当）
	中旬	選択レクリエーション
	下旬	苗物買い
5 月	上旬	選択レクリエーション
	中旬	グランドゴルフ
	下旬	介護者教
6 月	上旬	口の健康・食中毒
	中旬	選択レクリエーション
	下旬	七夕飾り作り
7 月	上旬	そうめん流し
	中旬	選択レクリエーション
	下旬	夏祭り
8 月	上旬	買い物行事
	中旬	盆団子作り
	下旬	体を動かそう
9 月	上旬	DVD鑑賞 かかし祭り見学
	中旬	敬老会
	下旬	ぶどう狩り
10 月	上旬	運動会
	中旬	秋の音楽会
	下旬	選択レクリエーション
11 月	上旬	ミステリーツアー 菊祭り見学
	中旬	文化祭
	下旬	介護教室
12 月	上旬	買い物行事
	中旬	忘年会
	下旬	ゆく年くる年
1 月	上旬	神宮参拝
	中旬	正月遊び
	下旬	新春グランドゴルフ大会
2 月	上旬	節分・豆まき
	中旬	茶話会
	下旬	テーブルレクリエーション
3 月	上旬	ひなまつり
	中旬	演芸会
	下旬	花見

平成 28 年度 事業計画(案)

フラワーホームホームヘルプサービス

【総合的な目標】

地域の中で自分らしく、心も豊かに暮らせるようにする

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

ヘルパー 1 人ひとりの質の向上を図るため研修に参加し、またそれが現場で生かされていくよう勉強していく。また、安心して仕事ができるような体制をとっていく。

【収益的活動】

利用者の健康状態などを訪問時に把握し、異常時は早期に発見でき、できる限り自宅で生活してもらうようにする。また、専門職の指導や助言をもらいながら行う。

【支出的活動】

備品購入の見直しを行う。

【地域貢献活動】

ヘルパーの役割として各地域での行事参加のための利用者と地域との連絡係りとなり調整していく。連絡を取り合う中で地域の方々とヘルパーの交流を図る。

平成 28 年度 研修計画（案）

フラワーホームホームヘルプサービス

	研修項目	研修内容
4 月	運営方針倫理規定について	
5 月	接遇について	マナー言葉使い
6 月	調理のしかた	減塩調理，カロリー計算
7 月	食中毒について	殺菌、除菌のしかた
8 月	熱中症、脱水について	摂取のしかた、症状について
9 月	事故防止について	転倒予防，移乗のしかた
10 月	プライバシーについて	個人情報の扱い方
11 月	感染症及びまん延防止	かからないための予防
12 月	認知症のついて	症状、対応について
1 月	緊急時対応について	手順その時の対応について
2 月	虐待、身体拘束について	対応のしかた
3 月	来年度の計画について	目標、予算、費用

＊外部研修については、必要性を検討し参加する。

＊外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画（案）

事業所名〇〇〇

4 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
5 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
6 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
7 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
8 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
9 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
10 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
11 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
12 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
1 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
2 月	上旬	
	中旬	
	下旬	
3 月	上旬	
	中旬	
	下旬	

平成 28 年度 事業計画（案）

フラワーホーム居宅介護支援事業所

【総合的な目標】

フラワーホーム居宅介護支援事業所は、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って相談・援助を行う。利用者の心身の状況や置かれている環境に応じて、利用者および家族の意思により、適切な保険、医療サービス及び福祉サービス等が行われるよう、総合かつ効率的なサービス提供がなされるよう配慮して事業に取り組む。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

信頼関係を作り、本人、家族だけでなく、友人、近所、地域からの情報を聞き取り、その人らしい望む暮らしが続けられるように、アセスメントの際の課題分析力の向上を目指す。介護保険制度の変化に対応できるように自己研鑽と必要な研修参加し、新しい情報を取得すると共に理解を深める。

【収益的活動】

主任ケアマネを取得して、特定事業所加算が取得できる体制にして収入増につなげ、減算がないように書類整理と確実な業務を行う。

【支出的活動】

鍵付きのキャビネットを購入し、個人情報保護に留意した事務所の環境整備を行う。

【地域貢献活動】

笑顔での接遇に心がけ、利用者、家族、地域住民へ適切な相談支援を行う。
事業所の所在地である論地の清掃活動に参加する。

平成 28 年度 研修計画（案）

フラワーホーム居宅介護支援事業所

	研修項目	研修内容
4 月	法人の倫理、理念について	法人の倫理、理念について学ぶ
5 月	認知症の理解と対応	事例検討・よりよいケアを行うために
6 月	リスクマネジメントについて	去年度のインシデント・アクシデントの反省、事故予防について
7 月	苦情・相談について	苦情・相談のマニュアルの確認 事例検討等
8 月	個人情報の保護とコンプライアンス	個人情報の取り扱い、利用方法・他事業所との連携について
9 月	職員のメンタルヘルスについて	外部講師依頼検討
10 月	相談援助技術について	直接援助技術や間接援助技術などについて学ぶ
11 月	感染症予防	感染症の種類と予防方法
12 月	虐待防止等の権利擁護	利用者のプライバシー保護と虐待防止に関する知識、身体拘束等について
1 月	褥瘡予防	褥瘡の知識や予防方法、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等について
2 月	救急救命 AED の使い方	AED の使い方、心肺蘇生法など緊急時に対応できるように学ぶ
3 月	フォーマル・インフォーマルサービスについて（総合事業も含む）	地域の中のボランティア活動などの社会資源について学ぶ

* 外部研修については、必要性を検討し参加する。

* 外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 事業計画（案）

地域包括支援センター

【総合的な目標】

地域包括支援センターは、高齢者の生活を総合的に支えていく拠点として、住み慣れた地域で健やかに、いきいきと生活できるように、各関係機関と連携を取りながら、高齢者やその家族に対し総合的な支援を行う。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

地域の高齢者の総合相談の窓口として、相談の内容や経緯を的確に把握し、制度の理解を求め、適切なサービスが総合的、効率的に提供されるように利用者、家族を支援する。

主任介護支援専門員としてのスキルを磨き、事業所のケアマネと共に学び、実践していく。

【収益的活動】

実態把握調査にて総合プログラム事業等の地域支援事業の説明を行う。

【支出的活動】

地域支援事業や権利擁護などのパンフレットを作成し広報・啓発活動を行う。

【地域貢献活動】

安心して地域での生活が継続できるように、各関係機関との連携を行い地域ケア会議にて高齢者の権利擁護の支援体制を作る。

事業所所在地の清掃を行う。

平成 28 年度 研修計画（案）

地域包括支援センター

	研修項目	研修内容
4 月	法人の倫理、理念について	法人の倫理、理念について学ぶ
5 月	認知症の理解と対応	事例検討・よりよいケアを行うために
6 月	リスクマネジメントについて	去年度のインシデント・アクシデントの反省、事故予防について
7 月	苦情・相談について	苦情・相談のマニュアルの確認 事例検討等
8 月	個人情報の保護とコンプライアンス	個人情報の取り扱い、利用方法・他事業所との連携について
9 月	職員のメンタルヘルスについて	外部講師依頼検討
10 月	相談援助技術について	直接援助技術や間接援助技術などについて学ぶ
11 月	感染症予防	感染症の種類と予防方法
12 月	虐待防止等の権利擁護	利用者のプライバシー保護と虐待防止に関する知識、身体拘束等について
1 月	褥瘡予防	褥瘡の知識や予防方法、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等について
2 月	救急救命 AED の使い方	AED の使い方、心肺蘇生法など緊急時に対応できるように学ぶ
3 月	フォーマル・インフォーマルサービスについて（総合事業も含む）	地域の中のボランティア活動などの社会資源について学ぶ

* 外部研修については、必要性を検討し参加する。

* 外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画（案）

地域包括支援センター

4 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
5 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	鹿児島県地域包括支援センター総会
6 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
7 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
8 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	包括主催介護支援専門員研修
9 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
10 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
11 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
12 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
1 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	包括主催介護支援専門員研修
2 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	
3 月	上旬	霧島市業務連絡協議会
	中旬	霧島市地域包括ケア会議・権利擁護部会
	下旬	

平成 28 年度 事業計画（案）

デイサービス 白梅

【総合的な目標】

事業所理念に基づき利用者の気持ちに寄り添いながら、持てる力が十分に発揮され、ご自宅での生活が安心して継続できるよう支援する。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

- ①認知症予防の為にレクリエーションや行事の充実を図る。
- ②下肢筋力維持のための取り組みを増やす。
- ③事例検討を行い個々の理解を深め、関わり方の見直し・分析を通して認知症理解や対応の在り方について理解を深め実践する。
- ④職員それぞれが自分の役割を果たし、具体的目標を達成できるようにする。

【収益的活動】

- ①認知症介護実践者研修を受講し加算をとれる体制を作る。
- ②短期入所生活介護を利用される利用者が増えており、デイを利用されない分収益が減少する。
利用者と家族の意向を踏まえ、関係各所と連携しながら適切なサービスの利用につながるようにする。
- ③創意工夫し節約しながらも楽しめるデイサービスの運営を目指す。

【支出的活動】

- ①テーブルや椅子の購入を検討。（耐久性のないもの、利用者の疾患の進行やADL低下により使いづらいものが出てきている）
- ②地域交流スペースの環境整備に力を入れる。（ジョイントマットを敷く、本棚を整備するなど）

【地域貢献活動】

- ①週 1 回、日中利用者と近隣の散歩をかねてゴミ拾い、声掛け運動をする。
- ②白梅で地域の方々との交流会を月 1 回行う。
- ③広報誌を作り白梅の活動を家族や地域の方にも知ってもらう。

平成 28 年度 研修計画（案）

デイサービス 白梅

	研修項目	研修内容
4 月	受け持ち利用者ケースカンファレンス ①	計画見直しや新たなニーズが生じていない か検討
5 月	個人情報保護について	情報の取り扱い、利用方法、他事業所との 連携の際の情報の取り扱いについて
6 月	受け持ち利用者ケースカンファレンス ②	計画見直しや新たなニーズが生じていない か検討
7 月	事故発生時の対応・災害時対応につい て	サービス提供中の事故発生対応の仕方と、 自身の役割を学ぶ 災害時対応と日常の備えについて学ぶ
8 月	受け持ち利用者ケースカンファレンス ③	計画見直しや新たなニーズが生じていない か検討
9 月	相談・苦情対応について	事例をもとにディスカッションする、(マニ ュアルを用いて事例の具体的対応について 考える)
10 月	受け持ち利用者ケースカンファレンス ④	計画見直しや新たなニーズが生じていない か検討
11 月	感染症について	集団感染しやすいノロウイルス、インフル エンザウイルス感染の予防と発生時の対応 について学ぶ
12 月	受け持ち利用者ケースカンファレンス ⑤	計画見直しや新たなニーズが生じていない か検討
1 月	高齢者虐待について	高齢者虐待の事例を用い、通所介護で職員 が何ができるかをディスカッションする
2 月	受け持ち利用者ケースカンファレンス ⑥	計画見直しや新たなニーズが生じていない か検討
3 月	応急手当について	心肺蘇生法、AED の使い方を再確認し、学 びを深める

＊外部研修については、必要性を検討し参加する。

＊外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画

デイサービス 白梅

4 月	上旬	身体測定 春の遠足（手作り弁当を持って）
	中旬	ふくれ菓子作り
	下旬	野菜の苗植え 苗もの買い カレンダー書き
5 月	上旬	野菜の苗植え こいのぼり作成 あくまき・かからん団子作り
	中旬	梅漬け 母の日 バラ園見学
	下旬	体力測定 カレンダー書き
6 月	上旬	らっきょ漬け 入れ歯の手入れについて
	中旬	さのぼり 父の日
	下旬	ひまわり・あじさい見学 カレンダー書き
7 月	上旬	七夕 高千穂牧場ドライブ
	中旬	ところてん作り
	下旬	そうめん流し カレンダー書き
8 月	上旬	回想（あの頃を思い出して）
	中旬	ぼんだご作り
	下旬	体力測定 カレンダー書き
9 月	上旬	読書会 案山子作り・山田のかかし見物
	中旬	敬老会・ボランティアを招いて 消防訓練（自主訓練）
	下旬	味噌作り 野菜植え カレンダー書き
10 月	上旬	第 3 回白梅運動会
	中旬	動物と触れ合う
	下旬	映画鑑賞会 コスモス見学 カレンダー書き
11 月	上旬	紅葉&足湯ドライブ 第 3 回白梅文化祭
	中旬	干し柿作り 手洗い学習会
	下旬	そば落し 甘酒・こんにゃく作り 体力測定 カレンダー書き
12 月	上旬	干し大根 高菜漬け 金柑漬け クリスマスツリーを作ろう
	中旬	年賀状作り 大掃除
	下旬	白梅忘年会 カレンダー書き そば打ち
1 月	上旬	初詣 正月の遊び 新春カラオケ大会 書初め 七草粥
	中旬	ぜんざい作り 室内ゲーム
	下旬	カレンダー書き
2 月	上旬	節分 梅・菜の花ドライブ
	中旬	映画鑑賞会 回想
	下旬	体力測定 カレンダー書き
3 月	上旬	羊羹作り 雛飾り作り
	中旬	ひなたぼっこ喫茶 消防訓練（自主訓練）
	下旬	カレンダー書き

平成 28 年度 事業計画（案）

小規模多機能ホーム ふもとの家

【総合的な目標】

小規模多機能ホームふもとの家は、家庭的な環境の中で、利用者一人ひとりを尊重し、役割や生きがいを持ってこれから先も住み慣れた地域の中、住み慣れた家で生活し続けられるように支援していく。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

地域での暮らしを支える為に、事業所から地域へ積極的にかかわっていくことによってこれまでに、本人が培ってきた地域との関係性を知ることが出来るようになる。そこで、利用者一人ひとりの生活環境を理解する為に「以前の暮らし方」を再検討していく。送迎中や外出活動など様々な場面で、本人や地域から情報を得ることが出来る。得られた情報を確実に記録に残し職員間での情報が共有できるように、毎週火曜日の昼食時を利用し一人づつケースカンファレンスを行っていく。また、客観的に分かりやすくするために、利用者一人ひとりのエコマップを作成し、地域の方との交流関係などを把握し、途切れてしまった人との関係性を再構築していくことで、生きることの喜びに繋げていく。

【収益的活動】

昨年の10月より、登録者数を29名へ変更しているが、3月からの新規利用者を含めて現在、23名の登録者数となっている。稼働率9割を目指すために新規利用者を4名見込み、収益を上げる。その為に、各病院の地域連携室や地域の居宅介護支援事業所との連携は勿論のこと、地域のゲートボール場やグラウンドゴルフ場へ出向いての営業活動、地域行事への参加などを通して、ふもとの家の活動紹介を行い、利用者を増やしていく。

何よりも現在、利用されている利用者へのサービスを充実させることが一番の営業活動に繋がると考えている。家族交流会の開催や日常の機能訓練、レクリエーション、外出活動など一人ひとりに合ったサービスを提供していく。また、看護師を中心に健康管理を行い、主治医と連携を図り、入院に至らないよう早期発見に努めることで収入を確保する。

【支出的活動】

支出については、無駄なものを購入していないか、無駄な電力を使用していないか職員間でその都度、検討していく。今年度、新築移転したが、思ったよりも収納が少ないため、介護用品や日用品などが同じ所にあり使用しづらいため、倉庫を購入し整理整頓に努める。また、耕運機を購入し利用者が農作業しやすいようにしていく。

行事についての支出は、毎月開催している地域のひろば事業であるお茶ったもんせが、平成28年度はライフサポーターが不在である為、霧島市からの予算が下りず事業所の負担となる。また今年度、開催しなかった夏祭りを計画する。

【地域貢献活動】

石峯自治会総会への参加や回覧板などで地域行事の把握を行い、交通安全の活動や地域の清掃活動、育成会の行事、地域行事の運営に携わるなどして、地域に貢献できるように地域行事に参加をしていく。また、小学生の夏休みを利用して利用者による竹とんぼや竹かごなどの竹細工作り教室や冬休みに凧づくり教室などを実施する。

事業所の近隣住民に協力を要請し夜間を想定した避難訓練を実施し、非常災害時に協力して頂ける関係性を構築していき、地域住民の方々の避難場所ともなれるよう、日頃から地域の方々が気軽に事業所へ来られるように「お茶ったもんせ」や照明保育園との交流を継続していく。

平成 28 年度 研修計画（案）

小規模多機能ホーム ふもとの家

	研修項目	研修内容
4 月	基本的な介護技術に関する研修	立ち上がりや移動について、基本的な介護方法と青山式の方法を学ぶ。
5 月	食事や嚥下に関する研修	糖尿病や高血圧、嚥下障害の方の食事の方法、口腔ケアについて学ぶ。
6 月	健康管理や薬の効能に関する研修	事業所の利用者がよく飲んでいいる薬の効能、副作用について学ぶ。高齢者の病気について知る。
7 月	小規模多機能型居宅介護について	小規模型居宅介護に期待される様々な事業所の取り組みについて学ぶ。
8 月	利用者の尊厳の実践的展開に関する研修	尊厳とは何か？理論問をはじめ、対人援助技術に関する専門的な知識・技術価値観を学ぶ。
9 月	介護記録の書き方に関する研修	ライフサポートワークの意義、活用法、プランに基づく記録の仕方など学ぶ。事故報告書やヒヤリハットの書き方。
10 月	認知症及び認知症ケアに関する研修	認知症の定義や中核症状、周辺症状を理解し認知症高齢者への対応方法を学ぶ。
11 月	非常災害時の対応に関する研修	非常災害時の避難誘導、連絡網等について
12 月	感染症及び食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修	感染症及び食中毒の発生要因や種類について学び、事業所内の予防策や蔓延防止策を徹底する。
1 月	プライバシー保護の取り組みに関する研修	ケース記録の取り扱いや日常のケアにおけるプライバシーに配慮した声のかけ方。
2 月	事故発生等緊急時の対応に関する研修	心肺停止、転倒事故、誤嚥・誤嚥事故等発生時の対応について
3 月	身体的拘束等の排除のための取り組みに関する研修	身体拘束がもたらす弊害を理解し、排除に向けたケア方法を学ぶ。高齢者虐待防止法を学び、人権意識を再確認する。

＊外部研修については、必要性を検討し参加する。

＊外部研修での復命・報告は職員研修会の中で随時行っていく。

平成 28 年度 年間行事計画（案）

小規模多機能ホーム ふもとの家

4 月	上旬	桜の花見
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
5 月	上旬	藤の花見 照明保育園とのあく巻き作り
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
6 月	上旬	梅干し作り
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ らっきょう漬け作り
7 月	上旬	照明保育園との七夕作り
	中旬	ふもとの家夏祭り
	下旬	お茶ったもんせ
8 月	上旬	そうめん流し 家族会（バーベキュー）
	中旬	竹とんぼ、竹かご作り教室
	下旬	お茶ったもんせ
9 月	上旬	
	中旬	敬老会
	下旬	おはぎ作り
10 月	上旬	照明保育園運動会
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
11 月	上旬	ほぜ祭り（こんにゃく作り）
	中旬	紅葉狩り
	下旬	お茶ったもんせ
12 月	上旬	
	中旬	門松、しめ縄作り
	下旬	お茶ったもんせ 忘年会 照明保育園児との餅つき
1 月	上旬	神宮参拝
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ
2 月	上旬	節分
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ 梅の花見
3 月	上旬	
	中旬	
	下旬	お茶ったもんせ ぼた餅作り

平成 28 年度 事業計画（案）

隠居長屋ろんち

【総合的な目標】

年をとっても、体が不自由になっても、認知症になっても、住み慣れた地域で、個人の尊厳を守りつつ、みんなで助け合いながら生きていけるように、共生・協働の暮らしが継続できるよう支援していく。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

入居者同士が助け合いながら生活できるよう支援する。

毎週土曜日の地域のひろば事業を通して地域との交流を図る。

季節に応じた郷土料理を職員、入居者、地域住民と一緒に作り伝承する。

【収益的活動】

特になし

※家賃収入は現規約のままとし、負担増を強くない住宅環境を今後も提供する。

【支出的活動】

特になし

【地域貢献活動】

地域の広場事業や山陵会の年間行事等を通じて、地域の方々との交流を図る。